会見内容

午前11時00分　開始

【広報広聴課長】　定刻になりましたので、12月市長定例記者会見を行います。

進行については、お手元に配りました次第によりまして、初めに市長あいさつ、２番目に12月補正予算案についての発表を行います。質問については、予算についてのみ、まずお受けいたします。最後に質疑応答ということで行います。よろしくお願いします。

市長、お願いします。

【市長】　おはようございます。

明日から12月ということでありまして、今日は12月の補正予算等の発表、また記者会見ということで開催をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

後は座って説明させていただきます。

まず、今回の補正予算の主な事業について説明をさせていただきます。

まず、人事異動や給与改定などによります人件費の補正といたしまして、全会計で１億2736万2000円を減額いたしました。この内訳といたしましては、期末手当の支給率の増と給与改定により3347万3000円の増額、職員の退職等、人事異動による補正として１億6083万5000円の減額であります。

人件費以外の補正といたしましては、まずワンストップフロア推進事業費として、７月に設置いたしましたプロジェクトチームの報告に基づき、市民の皆様に分かりやすく便利な窓口サービスを可能な限り一つのフロアで提供できますように総合案内コーナーを設置いたしますとともに、１階、２階フロアの課の案内サイン、低ロッカーの設置など、庁内環境を整備する経費581万9000円を計上いたしました。

また、米を大粒化し品質を向上させるための農機具や土壌改良資材等購入費の認定農業者に対する補助金134万8000円。市の管理地で、てんぐ巣病にかかりました桜の木の伐採、除去経費399万円。現在、旧愛発小中学校を愛発公民館として活用するため整備を進めていますが、３月の開館に合わせまして備品等を整備するための経費1550万円。運動公園プールの競技用プールとして日本水泳連盟の公認再取得のための経費及びこれに伴うコースロープなどの購入費1097万1000円を計上いたしました。

特別会計では、土地区画整理事業特別会計において、駅西土地区画整理事業の国庫補助金の追加交付によります物件移転補償金などの事業費8000万円を計上いたしました。

以上が今回の補正の主な事業であります。

【広報広聴課長】　ただいまのことにつきましてご質問がありましたらお願いします。

【記者】　最初の減額のあたりをもう一度詳しく説明していただけませんか。

【市長】　全部で3347万3000円が期末手当の支給率がちょっと増えたものですから、それが増えましたのと、職員が退職、また人事異動による補正として１億6083万5000円が減りました。

【総務部長】　まず、全部の会計です。一般会計、特別会計、企業会計、合わせての合計でございます。これが12月の補正額で１億2736万2000円を減額するというものでございます。

先ほど申しましたいわゆる今回の細かく言いますと人事院勧告によりましては給料の改定もありますが、扶養手当の一部あるいは勤勉手当が0.05カ月分、これは人勧でございますが、そういうものがあります。それとひっくるめて、当初予算におりました人間が異動と退職等によって減るというふうなことを挟みまして、総額が先ほど申しました１億2736万2000円でございました。期末手当、そういう人勧等の増減等で3347万3000円を増額いたします。そして、その１億2700万から3300万を引きました１億6083万5000円が退職と人事異動によるものという説明でございます。

【記者】　ありがとうございます。

市長、債務負担行為なんですけれども、中池見の管理運営業務は年度内に新たな事業者選定。この前の定例会見のときは、たしか何とか12月議会までにはというお話だったと思

うんですが、今はどういう状況なのでしょうか。
【市長】　12月の議会で発表します。
【記者】　ということは、決まっているわけですか。
【副市長】　大体なんですが、きちっとしたことは12月の議会の中で市長のほうから発言するということです。
【記者】　今の関連なんですけれども、債務負担行為で2200万円ですか。これは来年度の中池見の事業費が2200万円と考えてよろしいんですか。
【総務部長】　今申しました債務負担行為というのは、普通の予算じゃなくて、例えば予算の内容の一部として議会の議決によって設定されるわけなんですが、いわゆる３月までで契約が終わる。そうしますと、ある程度４月からすぐ違う業者がぽっというわけにはいかんものですから、いわゆる予算がないものですから契約等で発生する債務負担を設定する行為をしておいて、そして入札をかけないと、そのものについて予算はありませんし。
　そういうことがありますから、先に入札をするためにはこの債務負担の額を設けておかないといけない。そういう意味です。
【副市長】　簡単に言いますと、予算がないと契約が結べんのです。ですから、どんな工事でも委託でも一緒なんですけれども、予算があって初めて契約結べますので。予算のないときにはそういう債務負担行為を起こしておいて、予算を確保しておいて契約するという形になっております。そういうことのあらわれが今の債務負担行為という表現で出てまいります。
【記者】　それは今年度の分なのか来年度の分なのか、どっちのことですか。
【副市長】　債務負担は来年度。
【記者】　来年度の事業費というふうに考えればいいですね。
【副市長】　そうです。
【記者】　余り分からないんですけれども、基本的には来年2200万円で新しい業者さんと契約を結ぶということなんでしょうか。
【副市長】　それは入札で。
【記者】　入札で増減しますけれども、基本的にこのぐらいというふうに予算として考えているということなんですか。
【副市長】　そういうことです。
【記者】　分かりました。
【記者】　旧公共岸壁用地購入費、場所はどちらでございましょうか。
【市長】　今、市場を埋め立てている、あそこです。
【記者】　埋め立てたところのことなんですか。
【市長】　（地図を示す）ここです。ここが旧で、ここが埋め立てしたところですけれども、この間のところが国の地面があって、それを買うんやね。この部分です。
【記者】　それに関連してなんですけれども、今、船だまりのほうの検討はどうなっているんでしょうか。
【副市長】　細かい話になるんですが、今、地元の方々と話をしながら、どういうような景観を醸し出すか、あるいは行政だけではできないものですから皆さんのご協力を得るとか、あるいは景観でばっと網をかけてしまうためにはご了解いただかなあかん。そういうことを今、地元の方々と話し合っているところです。
【記者】　検討会の答申はまだ出ないんでしょうか。
【副市長】　答申と申しますと。
【記者】　たしか検討会があったんじゃなかったですか、船だまりの。
【副市長】　船だまり検討会ってあったんですか。僕らレベルでですか。
【記者】　あったと思いますけれども。答申がまだないと。
【副市長】　これはちょっと私の認識不足なのかもしれませんが、いわゆるうちの政策幹クラスで何回も協議していることは事実なんですけれども、行政が主体となってやっては

いないと思いますけどね。
　ちょっとあいまいなこと言って申しわけない。今ちょっと調べます。
【記者】　来年度、新市場、着工すると思うんですけれども、かなり連携してやられるということなので。
【副市長】　それはおっしゃるとおりです。あれは核になります。
【記者】　総務費関係のところ、ワンストップフロアですけれども、防災センターができることで、防災のほうはなくなりますよね。あれとの関連としてはどういうふうになるんですか。要するに１階の空きスペースみたいなのは。これが関連しているんですか。
【市長】　いろんな機能が防災センターに移りますから、空いたところを有効に活用するのと、まだこれからなんですけれども、市民の皆さん方が先ほど言いましたように一つのフロアで利用しやすいという形に直していきます。
【記者】　前にそういう話を聞いたとき、２階のほうにも税関係があるわけじゃないですか。市民がいわゆる窓口として移す部署を全部１階に集約させればそれが一番良いんだろうけれども、といって防災のエリアには多分入らないということで、課は動いたりするんですか。１階、２階の間で。
【市長】　多少それも今検討しています。
【記者】　それはまだ検討段階ということ。
【市長】　はい。
【記者】　ただ一応ある程度集約的にするための予算ということでいいんですか。
【市長】　建物の大きさは決まっていますし、平屋でならば１階でできますけれども、やはりなるべく、例えばお年寄り等が利用しやすい。今も福祉関係はなるべく下に配置していますし。今エレベーターありますので大体動けるんですけれども、ロッカーを低くしたりとか、そういう全体的に極力利用しやすいということで。建物の大きさ決まっておりますから、なるべく調整をして、また市民の皆さん方に今までこれちょっと使いにくいなという声も聞いていますので、その辺を総合的に勘案して使いやすいものにしたいと思っています。
【記者】　この予定のところは来年の２月の中旬ぐらいからということで、ちょうど防災センターのオープンに伴う生活防災課の移転に伴ってということでいいんですか。
【市長】　そうです。ともかくあっちへ動かんことには、こっちは触れませんから。
【記者】　分かりました。
【記者】　区画整理事業費なんですけれども、総事業費はたしか37億の大型の事業だと思うんですが、この8000万円というのは、この物件移転補償というのは当初の予算に入っていなかったんでしたっけ。
【副市長】　入っていません。
【記者】　入っていない。それは、要するに交渉がまとまったから。
【副市長】　順調に今いっている部分もありますから、その分を少しでも前倒しして補償していこうということです。事業を促進するという意味です。
【記者】　促進する。
【副市長】　より促進すると。当初予算４億8000万でしたから、それに8000万追加して５億6000万ならば、その分だけは今年度事業促進されるわけだということです。余り他意はないです。
【記者】　話が予定より早くまとまったから追加して、その分、前倒ししてするという意味なんですか。
【副市長】　急にまとまったとかそういうことではないです。かなり協力していただいている分がありますので、予算が来れば順次補償していくという形になります。
【記者】　やっぱりそれはそのたびに補正で対応していくと。
【副市長】　ということです。
【記者】　国庫補助金と一般会計の内訳の割合というのは、大体これぐらいの割合ですか。

【副市長】　大体半分ぐらいでした。55％ですか、補助率。
【記者】　上のやつなんですけれども、認定農業者って何人いるんですか。
【産業経済部長】　現在、認定農業者につきましては30名いらっしゃいまして、今回この事業に取り組まれる方は４名でございます。
【記者】　４人分を130万で割るということ、４で割ればいいということ。単純に。
【産業経済部長】　割るといいますか、それぞれ取り組まれる金額が変わりますので、それぞれの事業によってそれぞれに行きますので、１人に行くのは一緒の額ではございません。
【広報広聴課長】　あと12月補正予算案について質疑はありませんか。よろしいですか。
　では続きまして次第の３番目、質疑応答に移りたいと思います。
【記者】　先日、関西電力の森社長がプルサーマルについて前進する発言をしまして、将来的には敦賀でもプルサーマルをやっていくことになるかと思うんですけれども、現時点での市長のプルサーマル計画に対するスタンスというか考え方みたいなものがあれば所見をお伺いしたいんですけれども。
【市長】　この計画もやはり燃料を有効に活用していくという観点で、必要な事業だというふうには思っておりますけれども、私どもはやはり敦賀という立場で、具体的にはうちには日本原子力発電さんの発電所がございますので、そこでやるやらないということになればまた具体的に検討します。今は全くその話は聞いておりませんので。ほかの地域はほかの地域で理解を示されているところもあると。つい先だっても御前崎市が了解をされたということを聞いていますので、それぞれの地域が独自に判断をされて、あそこですと中部電力さんになるのかね。との話だというふうに思いますので。それはそれぞれの地域が理解をして、地域の皆さん方の理解があれば進められるのかなと。
　私ども、かなり前に高浜のほうも一応了解はしておったんですけれども、たしかしたと思うんです。それで、いろんな事故があってからストップしているという状況でありますから。安全面は一番大事でありますから、安全面がしっかり確保できれば、やはりこの事業も進めなくてはならん事業の一つかなとは思っています。
【記者】　それに関連してなんですが、敦賀２号でのプルサーマルは、原電さんは結局、関電さんがやるまではやれないというようなスタンスで聞いていて、こっちでは。そうすると、関電さんが動き始めたら原電も当然追随して話が出てくるだろうなという感じはしているんですが、それに向けてはまだ具体的な話がないから全く検討していないと。話が出てから具体的な検討に入るというふうに。今のところまだ全然白紙だと。必要だとは思っているけれども、検討はしていないということですか。
【市長】　私どもは今びお話は聞いていませんから、私どもとすれば、そういう話が具体的になればお話を受けて、議会といろいろ相談しながらどうするかを決めていきたい。今のところは全くおっしゃるとおり白紙です。
【記者】　また別の話なんですけれども、この間、拠点化の推進会議で、駅西に例の大学の連携拠点を置くというような意見書が最有力だということで、市長は駅西の用地を提供するのが最有力だという話をなさっていたと思うんですが、そこで結局、駅周辺整備策定委員会なんかでもずっと話し合われてきた中で、そういう話は全く出ていなかったと思うんですが、それをいきなり何か唐突な感も否めないというのが率直な印象なんですが、それに対すご所見は。
【市長】　駅西地区の整理事業ということでいろんな案があり、そこにパブリックスペースをつくったりホテルがあったりというようなことで大体受けているんですけれども、私は連携大学構想というのは自分自身の頭には前から持っていまして、原子力があってよかったと言われる地域づくりの大きな一つだというふうに思っています。優秀な人材がやはり敦賀に集まってくるということは大きく敦賀の活性化にもなりますし、そういう中でエネルギー研究センターの近くにもという話があったり、またほかの地域にもという声はあるんですけれども、やはり最近の少子・高齢化の影響でありましょうか、例えば東京周辺

でも昔、土地のバブルの時代に中心部の校舎を全部売却してよそへ出た、要するに八王子とかへ出た大学が中に戻りたいという動きが。やっぱり人間というのは便利の良いところに寄ってくるものですから。そうなると、やはり駅の近くというのはそういう面で魅力がある。それと従来からの駅周辺の経過がありますから、その中に。

私は、全く別のものにしようなんて思っていません。その中に組み入れればいいかなと。今の計画の中に大学というものが入ってくれれば、かなり魅力的なものになりますし、やはり駅ですから電車を当然学生さんは利用されると、直流化された電車などもかなり学生が乗ってくるということで利便性が増す。要するに、人のいるものを持ってくるんですから。がらんどうで、これから人を集客するというものを持ってきても今は大変だと思うんです。何か持ってきて、そこへ人を集めるというのは大変ですけれども、人ごとを持ってこれれば嫌でも活性化しますので、そういうことを考えていけば。やはり中心市街地の活性化もありますし、そういうもの等いろんなことをあわせると一石二鳥、一石三鳥、一石四鳥になる場所だというふうに自分自身は思っていますので、私の構想の中ではそう思っています。

これはまだ、これからいろいろとお話も聞かなくてはなりません。ただ、唐突に出たというのは、連携構想がまだぼやっとしていたものが、ある程度文科省も県もこれは何とかやろうということで形になってきましたので、今までの自分の思いの中で、有力であるということでお話ししたんですけれども。これはまた議会でもいろいろと話が出ますので、また説明をさせていただきたいと思っています。

【副市長】　全くその構想、現在の構想の中にないものではないんです。よく見ていただくと分かるかもしれませんが、産業とか人材育成というエリアがあるんです。ですから、全くゼロのようなところからそういう発想とか、あるいは今市長言われたことが出ているわけではないんです。その点はご理解いただきたいと思いますが。

【記者】　今の質問にちょっと関連するんですけれども、今市長おっしゃっていたようにかなり連携大学には期待感が大きいと思うんですけれども、あれの中ではやはり大学のみならず機構さんとの、原発関係者との絡みも多いと思うんですけれども。一応それでバーターとは申しませんけれども、もんじゅの運転再開の判断とあの計画というのはリンクされるんでしょうか。進展状況において。

【市長】　やはり国が、私ども国に対しても、発電所を誘致して、いろんな苦労ありながら誘致して努力をしてきた地域が報われるべきだということ、これは常々言ってきているんですが、そういう中で国に対しても、やはりもんじゅというものを持った地域として、ともに共存共栄をしようという私はスタンスでありますので、そういう観点からいけば、ともに発展するための一つの手段だというふうに思っていまして、バーター的なことは、私はそういうのは下手なものですから。取引下手な性格なもんで、これだからこうしろというのはありませんけれども、やはりお互いが共に発展するための一つの手段だと思っています。

【記者】　それに関連してなんですが、場所をいつまでに決めるとかはございますでしょうか。スケジュールといいましょうか。

【市長】　まだ今、時期的には、本当に構想の段階で、国もやろう、県もこれはいいということでやろうということで、私どももやろうという卵が生まれたばっかりですから、もう少しこれを練っていって。やはりこれだけ大事な重要な問題ですので、余り慌てて、せいてはことをし損じるということがございますので、やはりじっくりと育てていいものにしていきたいと思っています。

【記者】　さらに関連してなんですけれども、５月ぐらいの段階のときは、要するに立地に対してどのような思いを国が持っているのかということを見極めた上で運転再開の判断をしたいと。９月ぐらいの段階で、そういうメニューアップしていますけれどもまだそれは言える段階ではないですとおっしゃっていましたけれども、これは要するにメニューの中に入っていたわけでしょうか。

【市長】　国が私ども立地地域に対する思いという中で、やはりこれだけの事業を真剣に考えてくれるというのは、私どもにとってはありがたい一つの判断だというふうに思いますから、私どもは、共になし遂げたいと思っております。
【記者】　率直にお聞きすると、運転再開の判断条件があったとして、そのメニューがあるわけですね。市長は連携大学は連携大学、地域振興のメニューはメニューと考えているのか、これがやっぱり一番の果実だよねと思っていらっしゃるのか。あとはこれさえ進んでくれれば、もう僕は何も言うことはないですと思っていらっしゃるのかというところをお答えいただければと思うわけですけれども。
【市長】　答えにくい話でして、私も言いますように、ともかく長年なんです。ともかく原子力施設がある地域の思いというのは、私いつも言いますけれどもアトムポリス構想という三十数年前からの地元の願いがずっとありまして、それの集大成的なものには近いかなというふうには思っておりますので、ぜひ今はそれを仕上げたいという思いでいっぱいであります。
【記者】　ちょっと細かい話になりますけれども、市長ご自身の構想としては、学生街というのは余り購買力はなさそうに見えて、実は住まいを借りたりとか、いろいろ物を買ったりとか、特に大学院の場合は一定以上の教職員を置かないといけませんから、そういう経済効果というのは特にいいだろうと。若い世代の人たちが、ちょうど駅の近くにあると人が流入してくるわけですね。研究機関というか実験場みたいなのがエネ研の場所まで離れているというのは大学ではよくあることなので、それは問題ないと思いますけれども、規模とかそういったあたりは市長としてはどれぐらいをお考えになっていらっしゃるんですか。
【市長】　これは構想ですけれども、私は世界中の人材育成ができる場所が欲しいと思っているんです。連携大学でありますし、もちろん日本の国内の皆さん方を育成する場もそうでありますが、やはり今特にエネルギーというのは非常に世界中で環境問題のことが話題になっておりますので、いろんな新しいエネルギーについてでも、もちろん原子力についてでも研究者は必要な時代でありますから、そういう世界中の皆さん方が研究できる。これは私どもの第５次総合計画の「魅力あふれる国際交流都市」というものにも位置づけになってくるかなということで、限られた場所ではありますけれどもより多くの学生が集まる場所。経済効果というのは、非常に学生が来るところは必ず元気があることは間違いないというふうに確信していますので、規模的にもできるだけ多くの学生が集まっていただける規模にはしていただきたいと思っています。
【記者】　話がいろいろ飛んであれなんですけれども、プルサーマルの件なんですけれども、３月、４月に原電が保安院の調べた中で11件、全国で悪質な事例が一番ランクの高いやつのうちの５件が原電で、うち４件が敦賀原発の１号機、２号機であった段階のときに頼敬常務がいらっしゃったときには、こちらから今言える状態にないというふうにおっしゃっていたし、河瀬市長もその後の定例会見の場で何回か、向こうも言い出せる雰囲気ではないだろうというふうに思っていらっしゃるとおっしゃっていましたけれども、半年ぐらいたって、今その辺はどうでしょうか。
【市長】　全くこちらからどうですかと聞くものでもありませんので、会社の社内事情の中でこれは検討されるべきであるというふうに思います。そういう中で会社としてお話が聞けば、またそれは先ほど言いましたように議会と十分相談はしていきたいと思っています。
【記者】　全くまだそういうアクションのない状態ということですね。
【市長】　はい、ありません。
【記者】　この前ありました原子力防災訓練ですけれども、柏崎の件なんかで問題になった国の判断以前の段階で、立石地区の方たちは早期避難というのを今回、いわゆる15条通報の段階の前で避難ということを計画されていました。ただ、やっぱり天気が悪かったこともあって、県の言いようによると接岸できないことはないけれども、やっぱり訓練でそ

こまで危険なことをするのはどうかということでバスで避難してもらったということですけれども、早期避難の前提というのは、立石は原電の前を通らないと逃げようがないですよね、車では。だからあの地区は特別に船で逃げることにしたんだと言っていたけれども、結局やっぱりその前をバスで通ったわけじゃないですか。あの日、ヘリは結局１機も飛ばすことができなくて。

市長は中越沖地震が起きた後の８月の立地協のときに、旭副知事がいらっしゃる中で、あのときは４市町長、皆さんやっぱり県道の整備の充実を訴えていましたけれども、そのあたりは今どういう状態でしょうか。

【市長】　今回の訓練というのは、逆に言うとあの天候というのは良かったのかなと。いろんな教訓を与えていただいたシチュエーションがあったものですから、そういう中で今おっしゃっていただいたようにヘリは飛ばない、船も接岸しにくかったということで、要するに事故というのは全く待ったなし、気象条件の良いときに起きるなんて考えられんことでありますので、そういう点から避難道路というのはぜひ今回の訓練の教訓を生かして、やはり早急に対応していただきたいなというふうに思っています。

【記者】　何か要望の、それ以降の何か手ごたえとかは特にないわけですか。

【市長】　私どももこれずっと要望を出しておりますので、私どもも県当局も今回の訓練を踏まえて、やっぱり道路は必要だなという認識を持っていただいたように感じております。

【記者】　それは知事もいらっしゃった場ですけれども、何かそういうお話をされたりとかは。そんな時間はなかったでしょうか。

【市長】　そうですね。時間ありませんでした。

【記者】　分かりました。

【企画政策部政策幹】　先ほどの船だまり検討委員会の件についてちょっとご説明させていただきます。

まず結論から言いますと、そういう検討委員会は設置してございません。これは平成17年４月に駅から港への観光交流拠点の形成ということで何かできないかなということで、まちづくり交付金を利用して船だまり周辺一帯の整備を推進しようという趣旨から、地元の関係者とうちとが意見交換をやっているという組織でございまして、近々そのワークショップを開いたメンバーから市長に提言があるということで今聞いてございます。

以上でございます。

【記者】　もんじゅの耐震のバックチェックの評価、３カ月遅れるというのが出てきましたけれども、それについて市長はどのようにお考えになっておられるか、所見をお伺いしたいんですが。

【市長】　私どもも例の中越沖地震が起こってから、それぞれの事業者が。報告時期というのはばらばらだったものですから、確かに機械設備は違うので、早くできるところやら遅いところあるのかなと思っていたんですけれども、やはりより慎重に、もっと詰めて検査をしたいということでありますので、私はともかく安全にはこだわっていますので、より慎重にやる部分である程度ずらして、延ばして審議するということは私はいいと思います。より慎重に、より安全性を追求してもらうというのはいいと思っておりますので、ぜひしっかりとチェックはしてほしいなと思います。

【記者】　そんな中で、28日の例の原平協のフォーラムで、タイトルが「若狭の原子力発電所は地震に耐えられるのか」というタイトルだったと思うんですが、市長は今どのように感じていらっしゃるか。

【市長】　私もあのとき出させていただいて、大学の先生方の極めていろんなデータの中でお話を聞かせていただいたんです。あのお話の中では、ちょっとほっとすると言うと変ですけれども余り大きな心配はないなというふうには感じましたし、私もいつも言っているんですけれども中越の地震の中で、想定の３倍からの揺れをしながらも一応封じ込めるところは封じ込めることができた。止める、冷やす、封じ込めるという作業がちゃんとで

きていましたから、やはり日本の安全思想というのはしっかりしているかなとは思ったんですが。ただ、附帯設備等についてもいろいろなトラブルがありましたし、通報体制の諸問題はありましたので、ぜひそういう教訓を生かしていただきたいというふうに感じております。

前の説明の中では、ある程度耐えられるかなという思いもしています。要するに、若狭地方の全体の発電所はある程度の地震には耐えられるんじゃないかなというふうに思っています。

【記者】　駅の話ばっかり何なんですが、新幹線の件について、やっぱり２兆を超える財源のうちの財源の問題が残っていると市長はコメントされましたけれども、地元負担はどうなっていくのかなみたいなあたりは納税する立場、私も市民税を納めていますので気になるんですけれども、見通しとしてはどう思っていらっしゃいますか。

【市長】　そうですね。昨日もちょうど上京しまして、森元総理初め関係の皆さん方にお話、お礼。今回、ＰＴとして案に入れていただいたということでのお礼と、また今後のお話もしてまいったんですけれども。

そういう中で、やはり財源が非常に厳しいので、今日も新聞に出ていたとおりなんですけれども非常に大きな財源を伴いますし、当然地元負担もありましょうし。それと在来線の問題もあります。これにつきましては、当然また議論をしながらいい形にというふうに思っているんですが、ある程度の長い目で見なくてはなりませんが、財源的にはある程度負担もしますけれども、地元として。これはまた固定資産税等で、長い目で見ますとまた返ってくる一つの税であります。

やはり問題は三セクになる在来線がいかにうまく運営できるかな。これは学生の足。恐らく学生は幾ら何でも新幹線に乗って福井までは通えんと思いますので、恐らくそのあたりをしっかり議論しなくてはなりませんが、今はやはり敦賀までのまず認可をいただこうということで運動展開をして、予算措置についても今度の新年度では盛るのが少し難しいという話。これはまた官邸と政府側といいますか、自民党、与党とは少し思いのずれがありまして、町村官房長官にも昨日別件でもお会いはしてきたんですけれども、例えば道路特定財源の堅持で私ども首長99.3％の署名です。全国の首長の署名をもって特定財源を堅持してほしいということとか、また暫定税率を延長してほしいということでお願いしてきたんですけれども、やはり官邸の意向というのは何かに使えんかなという思いが感じられましたし、道路関係ならなというのはあったんですが、道路でもいろんな対応の仕方がありまして、私どもはやはり今の緊急時、例えば今の私どもの道路、避難道路もそうですし、病院の問題で奥越なんかも産婦人科医がいなくなって、緊急に産まれるときには道路でいち早く病院へお連れしようと思うと必要だというふうに思っていますのでそういう運動をしているんですが、やはり与党の案とちょっとまだ温度差があるなというのは感じましたので、今後とも私どもがしっかり運動して敦賀までの認可をかち取るというのが第一だというふうに思っています。予算についてはまた。

ただ、工事はどこからでもかかれますので、一遍にその予算をつけなくても年度年度で確保していけば、工事も１年で線路がずっとつながることは絶対ありませんから、そういう点でまた地道な運動をしていけばこれは実現できるというふうに思っていますけれども。やはり予算が伴う事業というのは、本当に今、公共事業が抑えられていますので、厳しいなと感じつつ頑張っていきたいなと思っています。

【記者】　三セクの件に関連してなんですけれども、やっぱり今の現状、大阪とのアクセスは非常に特急一本でつながっていい状態だと思いますけれども、仮に北陸新幹線が敦賀までということになった場合には、どうしても今よりは関西方面へのアクセスというのは便利が悪くなるだろうなとは思うんですけれども、逆に東京方面というのは新幹線が通ったらいいと思うんですけれども、市長としては、そこは新快速でカバーみたいな感じになるんですか。

【市長】　逆を言うと、敦賀まで仮に将来新幹線が来れば、敦賀から大阪へのアクセスは

もっと良くなると思います。新幹線に合わせて必ず特急も走りましょうし、新快速も走ってくるというふうに思いますから、逆に敦賀まで新幹線が来れば利便性は。ただ、私どもは三セクになる、要するに福井までのこの区間が通勤通学にかなり利用されていますので。ただ、うまく運営をしていけば三セクになりましても、特に通勤通学の時間帯の充実とかを図れば、これだけ利用がありますので、そう大きな赤字を出さずにやれる三セクができるのかなという気もしています。
【記者】　町村さんが８月にいらっしゃったときには、北陸新幹線は北信越の県にまたがる複雑な形態になるから、要するにそれぞれの例えば福井は福井とか、石川県は石川県と各県で三セクをつくるよりも、合同出資みたいな形の三セクをつくるのが多分効率がいいし、赤字になりにくいのではないかというふうにおっしゃっていましたけれども、市長はその辺はどういうふうに考えていらっしゃいますか。
【市長】　もちろん通勤通学もあるんですけれども、実は北陸線というのは貨物運送で非常にコンテナとかがたくさん利用されていますので、そういうことの輸送を確保するということになりますと、連携をやることも一つのアイデアであるし、三セクの中でも貨物を通すことによって収益が入りますから、案外連携した形の三セクも十分議論できるのかなというふうに思います。うちは敦賀まで、福井からここまで、ここまでと細かくやってあると運営もしにくいかなという気はするもので。だから町村官房長官がおっしゃったような形で、連携したそういうことも十分考えられるのではないかと思います。
【記者】　ありがとうございます。
【広報広聴課長】　ほかよろしいですか。
【記者】　６月補正予算で予算をつけられました金ケ崎の港の交流拠点用地なんですけれども、その後どうなっておられますでしょうか。
【市長】　人道の港での大和田別荘の跡のやつでしょうか。
【記者】　県有地のところですね。
【市長】　あれはまだ予算はまだ。県有地のところですね。あれは、まだ予算はついてないと思います。
【記者】　委員会の経費はついたかと思うんですけれども。
【産業経済部長】　４回分の委員会の経費ということで、６月補正で持たせていただいております。22万2000円を持たせていただいた件かと思いますが。この件につきましては今現在、交流拠点用地の、その用地自体が県の持ち物でございますので、県とその用地の使い方について協議をしております。まだ委員会については現在一回も開いておりません。
【広報広聴課長】　あとよろしいですか。
【記者】　最後に市長にお聞きしたいんですけれども、「熊谷ホテル物語」に出演なさいますけれども、意気込みといいますか、こういう市民の取り組みをどう思われるのかというのと、ちょうど今、人道の港なんかもずっと予算をつけて、もしかしたら新幹線も来て、またにぎわいかなというところで、どうでしょうか。
【市長】　私も練習は１回だけ出たんですけれども、全体を見なあかんので見せてもらったんです。稽古の様子を。なかなかおもしろい芝居だというふうに思っています。
　それと、敦賀はやはり昔からの国際の港町であったという名残の中で、熊谷ホテルというのはどちらかというと国際ホテルみたいな感じで、外国の方もたくさん泊まられたようでありまして、ちょうどいい時期にああいうものが市民の手によって上演されるというのは非常にいいなということで、私もいろんなところで実は宣伝をしておりまして、多くの人に見ていただきたいなというふうに思っています。
　やはり市民レベルで人道の港なり、敦賀のまちを盛り上げていただける活動というのは大変ありがたいというふうに思いますし、またこういうものを、演劇なりいろんなことを通じて市民の皆さん方が意識を持って盛り上げるぞということが、これも一つの契機として醸成されていくと大変ありがたいと思っています。
　私もちょい役で出ていますから、変装しますけれども。変装してもばれます。大体１分

ぐらい出ていますから。
【広報広聴課長】　それでは、12月市長定例記者会見を終了いたします。
　ありがとうございました。

午前11時48分　終了